

全校集会 学校長の話（2026年3月3日）

- おはようございます。きょうも表彰から始まりました。皆さんの頑張りが、こうして形になるのはうれしいことです。特に今回、市長表彰がありました。これは僕自身、校長になって初めてのことです。空手の全国大会での優勝。日々コツコツと鍛錬を積み重ねてきた結果です。本当におめでとうございます。そして、図書室の本を年間 200 冊以上読んだ生徒がいます。数十冊でもすごいのに、200 冊を超えるというのは並大抵のことではありません。絵画コンクールでの優秀賞も立派なことです。
- ここで、僕はこの三つの表彰に共通するものがありました。空手の鍛錬。本を手にとって読む。絵を描く。どれもアナログの行為です。画面の中では完結しない。自分の体を動かす、自分の手でページをめくる。そういう行為です。実は僕もよく本を読みます。最近は電子書籍で読むことも多い。便利なんです、軽いし、どこでも読める。（僕のスマホのなかには、漫画「キングダム」78 巻全巻が入っています！）
- ただ、不思議なことに、電子で読んだ内容って、あんまり頭に残らない気がする。紙の本で読んだときは、「あの話、本の後半の右ページに書いてあったな」みたいに思い出せるのに、電子だとそれが無い。これ、僕の気のせいかと思っていたんですが、調べてみたら、ちゃんと研究があるんです。
- ノルウェーの大学の研究で、同じ小説を紙の本と Kindle で読んだ人を比べたところ、紙で読んだ人のほうが、話の流れを正しく覚えていたという結果が出ています。理由の一つは、紙の本には重さや厚みがあって、「どのあたりまで読んだか」を手の感覚で覚えているからだそうです。ページをめくるという動作そのものが、記憶の手がかりになっている。電子書籍にはそれが無い。
- フィンランドでは、早くから教育のデジタル化を進めた結果、子どもたちの学力が下がったという指摘があり、紙の教科書を復活させた学校が増えているそうです。電子書籍がダメだと言いたいわけじゃありません。便利なものは使えばいい。AI がどんどん発達して、調べものも文章を書くのも、かなりのことができる時代になりました。僕自身も使っています。ICT 化を否定するつもりはありません。
- ただ、何もかもデジタルでいいのかというと、僕はそうは思いません。
- 「不易と流行」という言葉があります。これは江戸時代の俳人、松尾芭蕉の言葉です。「不易」は、時代が変わっても変わらない大事なもの。「流行」は、時代に合わせて変わっていくもの。芭蕉が言いたかったのは、どちらか片方だけではダメだということです。新しいものを取り入れながらも、変わらない本質を大事にする。両方あって初めて、ものごとは深くなる。
- 体を鍛えること。本を読むこと。人と直接話すこと。自分の手で何かをつくること。こういうことは、どれだけ技術が進んでも変わらない「不易」の部分だと思います。新しいものに乗っかるだけでなく、古いものにしがみつくだけでなく、両方を持てる人が、これからの時代、いちばん強いと僕は思っています。きょうの表彰、改めておめでとうございます。以上です。